

「起業」の心構えを学ぶ

学院大セミナーに学生300人



根本教授の司会で「起業」について熱っぽく語る三人の経営者

若手経営者が熱っぽく語る

夢中になれるもの大切に

「アントレプレナーセミナー」は六月二十五日開かれ、経営情報学部の学生約三百人が、北陸の若手経営者三人から起業の精神と心構えなどを学びました。

このセミナーは学生にベンチャーや起業家精神を学んでもらおうと学院大と石川県、石川県産業創出支援機構が主催しました。

コンピュターシステム開発「ヨーズマー」の野口高志代表取締役、NPO法人「起業ネットかなざわ」の山内司代表、シンクタンク「アスリック」の濱

博一代表取締役が、事業を起すすきっかけや経営のこつなどを経験や苦労話を通じて紹介しました。

三氏は起業には志を持つことが大切とし、利益だけを追求するのではなく、「地域や社会に貢献することを考えてほしい」と訴

えました

パネルディスカッションでは、経営情報学部の根本博教授が司会を務め、「企業に対して社会的貢献を求める傾向が高まっ

バド個人単で優勝を飾る

3県短大体育大会 学院短大勢が奮闘

北陸三県私立短大体育大会は六月二十一、二十二日、敦賀市内の会場で十短大が八競技に熱

ている」と説明し、三氏に地域のためになる企業活動などについて考え方のアドバイスを求めました。

戦を展開しました。金沢学院短大は来年が主管校となることから、出場選手のユニホームを新調、在校生・教職員も全員参加で応援しました。

この結果、金沢学院短大勢はバドミントン個人単で優勝、弓道個人で二位に入ったほか、バレーボール三位、バスケットボール三位、ソフトボール三位という成績でした。

「伝統工芸と街並み」探る

博物館学講座協議会全国大会 金沢学院大で100大学が参加



講演する本学の山崎助教授

全国大学博物館学講座協議会全国大会は六月十九、二十日、金沢学院大で行われ、全国百大学の博物館学の教員ら約百六十人が参加し、講演会や研修会

を通じて博物館学芸員課程運用や将来について理解を深めました。

同協議会は、金沢学院大など全国百八十三大学が加盟している。金沢での全

国大会は初めてで、今回は「伝統工芸と街並み」について考え、見学などを通して博物館学の充実を図っています。

講演会では美術文化学部の山崎達文助教授と金沢市まちなみ対策課の中川富喜担当課長補佐が講演しました。

山崎助教授は、「金沢の伝統工芸 その芸術性と産業性」と題して講演し、人間国宝の漆芸や陶芸作品を紹介しながら高い芸術性を解説した。その上で、職人の手仕事として分類される産業製品としての工芸も、高い水準を誇る金沢の伝統の奥深さを支えている一つであると指摘しました。

二十日は、金沢城公園などを見学しました。

短大の笠森教授 「表 棹影」の作品集を発売



金沢学院短大の笠森勇教授はこのほど、桂書房から「表 棹影作品集」を刊行しました。

天折した表棹影は、わずか三年間ほどの文学活動でしたが、笠森教授は、棹影が生涯のうちに作った俳句二十句、短歌二百三首、詩二十九編、小品・小説十篇と、新たに発見された「日記」も合わせて作品集として出版したものです。

発行・入試広報部